



古き歴史と新しい風



創立120周年

同

窓



発行
 福島県立
 橘高等学校同窓会
 (福島女子高等学校同窓会)

発行人
 坪井有子

発行所
 福島市宮下町7-41
 電話(024)535-3395
 FAX(024)535-3397

会員数
 37,602名
 (2017.3 現在)

母校創立120年



創立百二十周年を祝して

同窓会会長 坪井有子
(昭和41年卒)

創立百二十周年を迎えた母校

は、その記念の事業を学校・PTA・同窓会が一体となって「百二十年記念事業実行委員会」を作り

念事業として式典・記念講演会・記念誌発行・校歌「夢の光・光の夢」の斉唱用ピース楽譜作成およびCD作成・校歌のレリーフ作成

を行い、また、関連事業として音楽部創立百二十周年記念演奏会と山岳部ジョン・ユニアトレイルトレッキングも行われました。

この記念事業実施のため同窓会からも資金の協力をする事になり、今回は同窓会員の皆様から寄付金を集めることはせず、積立金から二百万円を拠出したしました。

この積立金はこれまで長年同窓会活動を支えて下さっている会員の皆様のご協力のおかげで積み立てていくことができました。今回の事業に使わせていただけたとに心から感謝申し上げます。

昨年秋に行われました記念式典

は生徒たちによる素晴らしい進行

で、式典の出席者の一体感を感じ、とても感動いたしました。

その他の事業も好評のうちに終えることができ安堵しております。今回の「同窓」に百二十周年

記念の記事が特集されております。

さて、今年度同窓会の評議員として橘高校の男子の卒業生を迎えることが出来ました。同窓会に新しい風を運んでくれることを期待しているところです。先日平成

三十年年度の総会に向けての当番青年幹事に、若い世代の学年幹事の方が大勢出席してくださいました。総会のご案内の方法についてもパソコン、スマホを使っての連絡の仕方などこれからどんどん変わって行くと感じております。

これから百三十周年に向けて母校橘高校が共学の新しい歴史を作

って行くことを願います。同窓会として協力していきたいと思っております。

総 会 報 告

平成二十九年 度同窓会総会 は、六月十七日(土)福島グリーンパレスにて、招待者の恩師・母校教職員・各支部代表・新幹事・七のつく当番学年等、総勢二百二十五名の参加で開催されました。

坪井有子同窓会会長、青山修身中学校長の挨拶があり、来賓紹介に続き議事に入りました。平成二十八年 度事業報告、決算・監査報告、平成二十九年 度事業計画案、予算案の審議がなされ、満場一致で承認されました。続いて当番学年によるアトラクションでは、立花かおりさん(昭和47年卒)他七名による箏と尺八の



ヤマトタチバナの芽吹く地より、永遠にとわ

校長 青山修身

同窓会員の皆様におかれましては、常日頃から本校教育にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。創立百二十周年を記念誌へ、かつ、「花たちばな」の校名を冠して十五年目の軌跡を学校沿革へ、それぞれ書き込もうとする今日、卒業生が銘々の希望進路に向かって、一人ひとり学舎を巣立ってまいります。

周年記念事業として、体育館正面向かって左手に設置した校歌レリーフ。「わたしたち 夢の光 光の夢 宇宙の花」。四季を問わぬ常緑のヤマトタチバナの葉の地に刻まれた金色の歌詞。向後八十年、創立二百周年に向けて、この橘色の学舎に学ぶ皆様の後輩を時に厳しく、時に温かく見守り続けることでしょう。皆様には事業へのご支援、ご協力

を賜りましたこと、重ね重ね御礼申し上げます。再び春が巡れば、希望を胸に新入生が一人ふたりと通う校門脇と正面玄関前のヤマトタチバナ。やがて数えきれぬ花々が咲き誇ります。小さな五片の、薫風に光る真白き花弁よ。結びに、同窓会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ本校教育へのご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。「三・一一」から七度目の厳冬に耐え、ヤマトタチバナの香気爽やかに放つ、ここ福島は宮下の終の地より、会報発行にあたってのご挨拶といたします。

演奏が披露されました。懐しく楽しい友との時間はあっという間に過ぎ

十年後に思いを馳せながら散会となりました。



会長挨拶



演奏風景



平成27年卒幹事(2名)・平成29年3月卒新幹事

平成29年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計予算書

収入金額 2,359,601円 自 平成29年4月1日
支出金額 2,359,601円 至 平成30年3月31日

Table with 5 columns: Item, Budget, Previous Budget, Change, and Details. Total budget is 2,359,601.

Table with 5 columns: Item, Budget, Previous Budget, Change, and Details. Total budget is 2,359,601.

平成28年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計決算書

収入金額 3,158,987円 自 平成28年4月1日
支出金額 2,889,386円 至 平成29年3月31日
次期繰越金 269,601円

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, and Details. Total actual is 3,158,987.

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, and Details. Total actual is 3,158,987.

監査いたしました結果、会計は適正に執行され、上記のとおり相違ないことを認めます。

平成29年4月5日 監査 橘 洋子 誉田 文子

(執行にあたっては項目間の流用を認めるものとする)

同窓会館たちなセミナーハウス維持管理費報告

◎収入 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Rows include 会費, 雑収入, 繰越金, 合計.

◎支出 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Rows include 維持経費, 施設維持管理費, 合計.

収入金額 8,222,977円
支出金額 450,192円
次期繰越金 7,772,785円

平成28年度同窓会積立金

Table with 2 columns: 積立金, 1,393,567円

平成28年度同窓会基金

Table with 2 columns: 積立基金, 11,921,204円

平成28年度同窓会協力金年代別納入状況

Table with 3 columns: 卒業年度, 人数, 金額. Rows include 大正~昭和30年代, 昭和40~60年代, 平成元年~20年代, 合計.

(H28.3.14~H29.3.15)

会報発行は協力金でまかなっております。円滑な発行のためお振り込みにご協力をお願いいたします。

平成28年度同窓会協力金

自平成28年4月1日 至平成29年3月31日

◎収入 (単位:円)

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Rows include 協力金, 預金利息, 前年度繰越金, 合計.

◎支出 (単位:円)

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Rows include 会報発行費印刷代, 発送料, 需用費, 合計.

収入金額 11,127,297円
支出金額 3,122,999円
次期繰越額 8,004,298円

監査いたしました結果、会計は適正に執行され、上記のとおり相違ないことを認めます。

平成29年4月5日

監査 橋 洋子

誉田 文子



Calendar for 平成29年度 (April 2017 to March 2018) with monthly events listed.

同窓会の主な行事
平成29年度

寄付金・寄贈品紹介

- 寄付金: 昭和34年卒「花たちばな 34会」 金三九、六二六円
昭和47年卒 学年会 金四万円
寄贈品: 昭和27年卒 杉山(関根)頼子様 著書『馬酔木の丘』二冊

お慶び

- 昭和29年卒 清水(宮下)玲子様
音訳ボランティア顕彰東北地区表彰
昭和33年卒 橋(佐藤)洋子様
厚生労働大臣表彰(ボランティア功労者) 県点字図書館音訳奉仕活動
昭和39年卒 佐藤(室井)幸代様 第71回二紀展 絵画部 文部科学大臣賞受賞

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

敬弔

- 鈴木 啓 先生
野村 米男 先生
(会 員)
昭和28年中村ミサヲ(吉田)
昭和27年伊藤ハル子(三瓶)
昭和26年美重(新井)
昭和25年石川(新井)
昭和24年見正(遠藤)
昭和23年岡野(丹野)
昭和22年志賀(佐藤)
昭和21年仲江川貞子(鈴木)
昭和20年北浦(山田)

新学年幹事

Table with 5 columns: 組, 氏名, 組, 氏名. Rows include 4組 馬場 祐輝, 3組 佐藤 千穂, 2組 丹治 彩奈, 1組 根本 郁美, 組 澁谷 知奏.

Large table listing names and birth years of members, organized by graduation year.

住所変更手続きのお願い

住所や電話番号等を変更された方は事務局までお知らせください。その際、正確を期するため書面(協力金振込用紙通信欄、ファックス、ハガキのいずれか)でご連絡下さい。

福島県立橋高等学校同窓会

(福島女子高等学校)
事務局 福島県立橋高等学校内
〒960-8011 福島市宮下町7番41号
ファックス番号 (024)535-3397

Table listing names and birth years of members, organized by graduation year.

120周年記念 特集



式典風景

10月1日(日)福島県立橋高等学校創立百二十周年記念式典が挙行されました。厳かな雰囲気の中で、坪井有子同窓会会長（昭和41年卒）が創立百二十周年記念事業実行委員長として、あいさつを肅々と述べられました。式典後には同窓生である国立歴史民俗博物館名誉教授の小島美子氏（昭和20年卒）による「二つの大きな反省——戦争と音楽——」と題して記念講演が行われ式典に華を添えました。

記念事業として、7月にアメリカのジョン・ミュージア・トレイルでの山岳部記念登山、10月20日(金)には福島市音楽堂を会場に音楽部記念演奏会が行われました。

記念講演



演題 「二つの大きな反省——戦争と音楽——」

講師 小島美子氏
（国立歴史民俗博物館名誉教授）

私は今までの人生の中で、二つの大きな反省があります。

一つは「戦争」に対してです。小学校から教育勅語を唱えさせられ、女学校時代は担任の先生から開戦を知らされると「面白い！」と発言するような筋金入り軍国少女でした。しかし、終戦後大学で勉強を進めていくうちに、それまであたえられていた情報がいかに間違っていたか痛感しました。だからもう二度と騙されないと決心しました。若い皆さんもマスコミや政治家の言うことを鵜呑みにせず、その奥に隠れているものを見抜く力を養ってほしいと思います。

二つ目の反省は「音楽」に対してです。私が育った家は洋風文化への志向が強く、伝統音楽には馴染みのない生活を送っていました。終戦後のアメリカ占領下では、すべての伝統文化を否定する風潮が横行し、本当にそうなのか見極めるべく東京藝術大学音楽理科に入学しました。

常識にとらわれず広い音楽観を持った民族音楽学の小泉文夫氏との出会いに触発されたり、日本各地で土着の音楽を調査する中で自分達の言葉で生き生きと歌う姿に刺激を受けたりしました。現在文科省は、漸く伝統音楽の重要性を示すようになりましたが、基本的には洋楽を基盤にしているのは問題だと思えます。伝統音楽には、洋楽のように決まった音程や音色では飽き足らないたくさんの可能性を

持っています。私は邦楽で現代を表現することができることを実感し、現代邦楽の演奏家や作曲家を応援しています。伝統音楽を世界に誇れるものになりたいと考えています。

この二つの反省から、皆さんには風潮に流されることなく自分をしっかり持つて強く生きて頂きたいと思えます。

（略歴）

一九二九年（昭和四年）生まれ。
昭和二十年福島高等女学校（本校）卒。
東京大学文学部国史学科卒、東京藝術大学音楽学部楽理科卒。
東京藝術大学講師、国立歴史民俗博物館教授、江戸東京民俗博物館研究員を経て、現在国立歴史民俗博物館名誉教授。
日本の伝統音楽について、古典芸術からわらわへ歌などの民俗芸能に至るまで幅広く研究し、日本の伝統音楽の見直しを説く。

（主な著書）

「日本の音楽を考える」（音楽の友社）
「歌をなくした日本人」（音楽の友社）
「日本音楽の古層」（春秋社） など

平成29年度 入試合格状況

(4月1日現在)

国立大学			私立大学			私立大学			大 学 校		
大 学 名	現役	過年度卒	大 学 名	現役	過年度卒	大 学 名	現役	過年度卒	大 学 校 名	現役	過年度卒
北見工大	1		北海道情報大	1		専修大	13		水産大学校		1
北海道大	1		仙台大	1		大東文化大	1	1	合 計	0	1
岩手大	2		東北学院大	62	2	拓殖大	1	1	短 期 大 学		
東北大	6		東北工大	3		中央大	11	5	短 大 名	現役	過年度卒
文	3		東北福祉大	31	3	帝京大	5		山形県米沢女短	1	
経	1		東北医薬大	5	1	東海大	5	1	会津大短大部	3	
工	2		宮城学院女子大	15		東京家政大	8		郡山女大短大部	3	
宮城教育大	2		仙台白百合女大	2		東京工科大	1		桜の聖母短	7	
秋田大	2		東北文化学園大	2		東京女子大	2		東北生活文化短大	1	
山形大	15	2	尚絅学院大	5		東京電機大	2		昭和音大短大	1	
福島大	43	4	いわき明星大	3		東京農大	1		合 計	16	0
人間発達文化	12	1	奥羽大	1	1	東京薬大	1		専 門 学 校 等		
行政政策	11		日本大(工)	8		東京理大	5		学 校 名	現役	過年度卒
経済経営	8		つくば国際大	2		東邦大	1		福島県立総合衛生	5	
共生システム	11	3	常磐大	1		東洋大	13	2	大原看護専門学校	5	1
夜間主	1		流通経済大	1		日本大(除工)	9	5	埼玉県立看護	1	
茨城大	6	1	国際医療福祉大	7		日本女子大	1		ポリリス保健看	1	
筑波大	1	1	自治医大	2		日本女子体育大	2		東京ベルエポック	1	
宇都宮大	5	1	獨協医大	1		日本体育大	2		大原法律公務員	1	
埼玉大	7	1	白鷲大	12		法政大	5		医療ビューティークレッジ	1	
千葉大	6	1	共愛学園前橋国際大	1		東京都市大	2		ヒューマンアカデミー	1	
東京海洋大	1		高崎健康福祉大	1	1	武蔵野音大	1		神田外語学院	1	
電気通信大	1		東京福祉大	2		武蔵野大	2		仙川ハビリテーション	1	
上越教育大	1		跡見学園女子大	1		明治大	6	1	仙台医療付属看護	1	
新潟大	5	1	城西大	5		明治学院大	4		日本外国語専門	1	
金沢大	1		駿河台大	1		明治薬大	1		合 計	20	1
富山大	1		東京国際大	1		立正大	2		就 職		
静岡大	2		東都医療大	1		早稲田大	4		就 職 先	現役	過年度卒
奈良女子大	1		獨協大	7		麻布大	1		福島県職員	1	
広島大	1	1	日本医療科学大	1		神奈川大	5	2	合 計	1	0
九州大	1		日本薬科大	1		神奈川工科大	5		種 別		
合 計	111	13	文教大	3		鎌倉女子大	1		国公立大学	145	13
公 立 大 学			城西国際大	1		神田外語大	4		私立大学	365	34
大 学 名	現役	過年度卒	城西国際大	1		関東学院大	4		大学校	0	1
岩手県立大	2		千葉科学大	1		横浜薬科大	1		短期大学	16	0
宮城大	2		高崎工大	5		新潟医療福祉大	1		専門学校等	20	1
会津大	2		東京情報大	1		志学館大	1		就職等	1	0
福島県立医大	6		青山学院大	3		大谷大	1				
医	1		大妻女子大	2		京都造形芸術大	1				
看護	5		学習院女子大	1		京都女子大	1				
前橋工科大	1		北里大	3	1	同志社大	3				
高崎経大	8		杏林大	1		立命館大	1				
埼玉県立大	2		工学院大	3		甲南大	2				
首都大東京	1		国学院大	1		創価大		1			
神奈川保健医療大	1		駒澤大	3	2	埼玉工業大		1			
新潟県立大	5		実践女子大	1		フェリス学院		1			
長岡造形大	1		芝浦工業大	4	1	合 計	365	34			
山梨県立大	2		上智大	1							
兵庫県立大	1		昭和大	1							
合 計	34	0	成蹊大	1							
			成城大	2	1						

※ 表中の数字は、「合格者数」である。
 ※ 表中の「過年度卒」欄の合格者数については、報告のあった人数を示している。

平成二十九年三月卒業生の
 大学合格状況と進路状況

平成二十九年年度の大学入試は、センター試験の五教科総合の全国平均点が上昇とともに、特に高得点者が例年より増加したのが特徴で、二次試験での記述力が合否を左右するこ

ととなった。大学の国公立大合格者数は、昨年より十九名増加して、のべ一四五名となった。大学ごとでは、福島大、山形大をはじめとする東北地区の大学に加え、関東地区の大学にも多数の合格者を出した。さらに、県立医大医学部一名、東北大六名、北海道大一名、筑波大一名、九州大一名など、「難関大」にも例年以上に合格者を出すことができた。この要因と

しては、生徒が最後まで本校の指導の流れに乗って勉強を続けたこと、合格に必要な力を身につけたことや、分析データを基に担任等とよく話し合い、堅実で適切な「二次出願」ができたこと等が挙げられる。また、三月の後期日程試験まで、あきらめることなく勉強を継続した者が多かったことが大きい。その結果、中・後期日程の合格者は二十四名にも上り、かなり健闘した。この戦う姿勢を、後輩たちには、ぜひ継承してほしい。



昭和34年卒 第11回花たちばな34会 喜寿を祝う学年会 於：飯坂温泉ホテル聚餐



昭和31年卒 傘寿を祝う集い



なつかしき恩師



卒業生の思い出

高木 ゆみ

平成18年4月〜平成28年3月

平成28年3月定年を迎え日も浅い私が、橋高校同窓会報に寄稿することに多少の戸惑いを覚えつつ、今この原稿を書いています。何故「戸惑い」なのか、それはおそらく私の中で橋高校を傍からみる自分にまだ慣れないからではないでしょうか。思えば平成18年より10年間、常に橋の生徒たちと繋がってきた日々でした。担任であれば誰しもが同じように考えるでしょうが、どの学年にもそれぞれ特別な思いがあります。橋四期生（平成20年度卒）は文科省より英語

教育を重点的に行う高等学校（セルハイ）として指定を受け、英語に特化した授業研究や研究発表の機会が多くありました。全国からの教員を前に堂々と英語で発表する生徒の表情は自信に満ち溢れていたのを今でも覚えています。オーストラリア・アデレード市への研修旅行でもホームステイし現地の高校と一緒に授業を受けました。三年後には同高校の日本語選択の生徒たちが橋を訪問、また留学生を受け入れられたりと、いわゆる草の根の国際交流を体験すること

ができたことは生徒たちにも大きな影響を及ぼしたに違いありません。橋七期生（平成23年度卒）については何とんでもあの大震災を抜きにしては語ることはできません。進路目標に向かいまさに邁進せんとする三年になる矢先に大地震に見舞われた生徒たち、さぞや不安だったことでしょう。だが幸いなことに、被害が少なかった橋高校は制約を受けながらもほぼ例年通りの新学期を始めることができましたのです。浜通りからの転入生も加わり、

退職後は地元で再び英語を教えています。ここは私が最初に着任した学校でもあり何か不思議な縁を感じています。まさに「初心に帰る」を身を以て実践しているわけですが、学校は違っても真摯に学ぶ生徒から私がエネルギーをもらっている感はいなまません。今までわからなかったことがわかる、できなかったことができる——その喜びを生徒たちと共有することをめざして教壇に立つ毎日です。

卒業生の活躍

音訊奉仕に携わって

清水(宮下)玲子 (昭和29年卒)



点字図書館の「朗読奉仕者養成講座」の開講を当時ラジオで知り受講したの

は昭和55年でした。細々ながらも活動を続けて37年

余り。振りかえればこの間に、「朗読」は「音訊」へとより端的な表現となり、録音もカセットから

テープ磨耗の心配のいらぬないデイジーへ。デジタル化された図書がインターネットで配信されるようになっていきます。

音訊は「視覚障害者の目の代わり」としての音声化ですから、ただ読めばよいということではな

く、聞き手が自分の感性で内容を受けとめられる音声化が必要とされ、更に原本に忠実に全ての視覚情報の音声化が求められます。

活動にあたって、原本一冊ごとに処理の仕方・方法等で苦慮することは勿論ありましたが、利用者に思いを至しながら仕上げた時の充足感はずいぶん大きくなりました。共に歩みを進める仲間も、存在も大きな力でした。わけても、

毎年もち回りで開催された、東北・新潟・北海道ブロック協議会に集

う多くの仲間達。研修に臨むその仲間達の熱気は、私に活動の継続を強くうながすものでした。今回受賞時に私はふと母校恩師 秦艶先生が思い出されました。私が奉仕員となった丁度その年に、先生は、ご退職後から続けてこられた「朗読奉仕」で表彰を受けられました。「何のお役にも立たない年老いた身に、朗読はもはや生き甲斐の一つ、その生き甲斐に感謝状とは有難く、もったいない。」今、私は、憎越ながら同様の気持ちになって居ります。

清水玲子氏プロフィール

平成20年度〜平成27年度
橋高校同窓会会長を務める。
平成29年9月22日
第47回朗読録音奉仕者感謝の集い
東北地区表彰感謝状受賞

自分らしいスタイルで音楽を続ける

米田(島田)佳奈 (平成15年卒)

(作曲家・ピアニスト)



私は作曲家兼ピアニストです。しかし、活動再開に至るまでは7年以上のブランクがあります。育児に勤んでいたこともありましたが、全くピアノを触りたいという気持ちになりませんでした。

音楽大学には優秀なピアニストが沢山いました。大学内だけでなく、音楽家は世の中に溢れているように思えました。それは今でもそうです。「別に自分でなくても良いのでは」という気持ちと、「安定した職に就きたい」という

気持ちがあり、その時点で一切の音楽活動を辞めました。そして脇目も振らず1年間勉強し、公務員になりました。7年以上ピアノを弾かなかった私が何故音楽活動を再開することになったのか。それは、「勿体無い」と活動を勧められる先輩がいたから。そして、「1番でなくても価値がある」と思えたからです。重い腰を上げたあと、素敵な音楽仲間に出逢い、小学生の頃から東京芸術大学の先生に教えて頂いていた作曲を生かせる仕事も無い込んできました。また、復興支援コンサートに「福島三人娘」として出演させていただいたり、福島民友新聞社主催イベントで詩人・和合亮一氏の朗読会のBGM演奏もさせていただきました。そこには人に喜んでもらえる場所がありました。

私は2児の母でもあります。毎日のお弁当作り、保護者会や行事の係。家では質問や「見て！」の連続。お風呂に入れたり歯磨きをしてあげたり、洗濯、アイロン：へとへとになった頃ようやく自分の時間です。そんなバタバタした生活の私でも、作曲なら書き留めておくことができます。今後も聴いてくださる方々の胸を打つような作品を書けるよう、少しずつでも勉強を重ねていきたいと思います。

米田佳奈氏プロフィール

活動名：奏音（かなで）
作曲家・編曲家・ピアニスト
東京音楽大学卒業。
コンサート、楽曲提供、ラジオ出演等精力的に活動中。
オリジナルCD「奏音（かなで）のカケラ」発売中。

同窓 ニューズMEMO

7	6	6	5	7~5	4	3	3	1	月
19	22~21	10	24	5~22	18~17	29	9	7	日
昭和34年卒 第11回花たちばな34会 喜寿を祝う会 飯坂温泉ホテル聚餐にて開催 73名出席	平成30年 平成18年卒 橋1期生同期会 □オーレンリーフにて開催 43名出席	郡山支部「福桜会のつどい」 総会・講演会・懇親会 アンジェ口開成店にて開催 27名出席	昭和31年卒 傘寿を祝う集い ホテル福島グリーンパレスにて開催 89名出席	昭和35年卒有志 珊瑚ぼらん作品展 とつぽろみんなの文化センター ルネサンス広場にて開催	平成33年卒 遠藤千晶様 第38回松尾芸能賞新人賞受賞 バレエ部OG 松桜会例会 飯坂温泉あづま荘にて開催 12名出席	昭和26年卒 第17回からたち木曜会 ホテル辰巳屋にて開催 16名出席	平成27年卒 橋10期生同期会 ザ・セレクトン福島にて開催 116名出席	平成29年 福女バスケットボール クラブ総会 □オーゼンケラーにて開催	M E M O
1	11	11	10	10	10	10	10	9	月
2	16~15	15	29	28	11	5	1	24	日
須賀川支部 須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 7名出席	須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 15名出席	福島市役所支部研修会 □アフリカ・マコンデ族の音 楽と文化交流 古閑裕而記念館にて開催 バレエ部OG 松桜会例会 飯坂温泉あづま荘にて開催 10名出席	創立120周年 記念式典・記念講演会 母校体育館にて開催 平成10年卒 二瓶野枝様 「重陽の芸術祭2017」に参加 ダンスパフォーマンス披露 福島市役所支部総会 ホテル福島グリーンパレスにて開催	愛知支部 第一回愛知たちばな会 刈谷市ロスクエア楽坐にて開催	須賀川支部 須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 7名出席	須賀川支部 須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 15名出席	須賀川支部 須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 15名出席	須賀川支部 須賀川支部総会・懇親会 ホテル虎屋にて開催 15名出席	M E M O

平成30年度(2018年) 総会のお知らせ

と き
平成30年 6月16日(土)
11:00~14:30

と ころ
福島グリーンパレス
(福島市太田町13-53)
TEL.024-533-1171

当番学年
卒年に**8**のつく学年

内 容
総 親 会
会 費
5,000円

支部だより

須賀川支部

蘇った青春時代

須田(遊佐)良子(昭和33年卒)

私達須賀川支部は、今年支部結成三十八年目を迎えました。この間数年の休会期間がありました。が、四年前再開し、会員数七十三(男一色)名で現在に至っております。

10月29日(日)市内ホテル虎屋にて今年度の支部総会・懇親会は、出席者十五名で開催しました。

歌手・ボイストレーナーの藤居ジュンコさんを講師に迎えた研修は大好評でした。先生の弾き歌いを鑑賞し、体全体を使った発声方法等々の指導を受け、音域の広がりとこのびやかな声を実感し歌う楽しさを堪能した密度濃い内容でした。会終了前に歌った全員での校歌は現役高校生に引けを取らない見事な歌声でした。



須賀川支部

愛知支部

『愛知たちばな会』誕生

渡邊(佐藤)淳子(昭和47年卒)

平成29年10月28日、刈谷市Dスクエア楽坐にて『愛知たちばな会』



愛知支部

郡山支部福桜会

豊かな時間を満喫!福桜会

佐藤(山崎)久子(昭和33年卒)

平成29年6月10日、郡山支部福桜会の総会と講演会、懇親会を開催しました。

「二本の水路」が日本遺産になったことから、安積疎水の歴史について学びたいと郷土史家、遠藤教之先生の講演会が実現しまし

懇親会を開催いたしました。

第一回と言うこともあり、出席者は7名と少数でしたが、初顔合わせとは思えぬ程会話が弾み、笑いあり感動ありの楽しいひとときを過ごしました。

部活の思い出や、趣味の域を越えたものづくりの紹介など今昔話に花が咲き、予定時間をオーバーする盛り上がりでした。

ここ愛知における同窓生の絆が深められた有意義な懇親会であったと思います。

ご出席くださいました皆様の御協力に、心から感謝申し上げます。

今回、案内状をお届けできなかった県内の同窓生の皆様、住所変更された皆様、橋高校同窓会事務局までご連絡ください。

最後に、母校同窓会が今後益々発展されますよう祈念いたしまして寄稿とさせていただきます。



郡山支部福桜会

た。疎水が計画される以前から郷土には疎水を考えたり、私財を投じて疎水実現のために奔走した先人がいたこと等、貴重な資料からその真実がわかりました。

最後は全員で校歌、応援歌、マイロードを熱唱、心は青春時代にもどったままお開きになりました。

支部一覧

支部名	支部長	卒年
東京(事務局)	山口(渡邊)洋子	昭44
愛知(事務局)	飯沼(斎藤)了子	昭46
愛知(事務局)	安藤(宇津木)幸恵	昭35
郡山福桜会	渡邊(佐藤)淳子	昭47
会津	高橋(鈴木)信子	昭40
須賀川(事務局)	須田(遊佐)良子	昭33
二本松福松会(事務局)	大松(桜田)良子	昭28
本宮	遠藤(加藤)迪子	昭29
保原	丹山(栗原)由美	昭40
川俣	斎藤(佐藤)幸子	昭18
飯坂	佐々木(佐藤)米子	昭30
福島県庁	渡部(佐々木)美香	昭51
福島市役所	香野(半野)さかえ	昭45
たちばな会(事務局)	國分(木村)恵美	昭59

学年だより

元氣な八十三歳

宮澤 芳子（昭和27年卒）



十年前の同窓会総会は学年幹事十三名でしたが、亡くなった方も居り、今回幹事を引き受けてくれたのはそのうちの五名でした。総会にはなるべく多くの方に出席していただきたく、幹事五名がそれぞれ一名以上誘いましょうというつもりになり、誘われた方がまた友人を誘い、南は神奈川から北は岩手まで元氣な八十三歳（一部八十四歳）二十五名が集まってくれました。出席はしたいが、この年齢で一人で出向くのはためらう方も居り、集まった方の中でも、これが最後だろうという方も毎年でも集まりたいという方がいて今後どうしたものかと思っっています。

業を受けることもできましたし、姉妹で同じホームルームという方も何組か居りました。

十年前の同窓会総会にご出席いただいた恩師今泉清子先生は満百歳を迎えられ、お元氣とのことでした。

また、アトラクションの箏と尺八の演奏素晴らしかったです。四十七年卒の方々には記念写真の手配など大変お世話になり有難うございました。

十年ぶり!!の笑顔

齋野（佐藤）厚子（昭和37年卒）



今回は七十余名の参加となりました。歳を重ねた奥ゆかしさが身についた熟年女性として、再会出来た嬉しさと華やかさでいっぱいでした。女子高時代にタイムスリップし、お喋りに花が咲き大変盛り上がりなごやかな交流会となりました。

校歌斉唱では、当時に思いを馳せながら歌いました。新校歌は、新たな高校になったのだと強く印象づけるものでした。夢・光・壮大な宇宙・グローバル社会を強く生き抜く力とこれからの人生を支えてくれる応援歌として素晴らしい校歌に感動しました。七十代の私

達もこれからの日々、夢を持ち続けて行きたいと…感じさせられたひと時でした。「あれから十年…」十年前の初幹事九名が苦勞を共にし、人集めに頑張った事で絆が生まれ連帯が深まりました。閉会後喫茶室でコーヒートの香りの中一また、会いましょう!」名残りを惜しみ散会しました。

還暦過ぎてても……

大寺（天沼）智子（昭和47年卒）

卒業以来四十五年ぶりの再会となる友だちの胸の名札を見つづ当時の面影を見つけると、たちまち女子高生にタイムスリップするのは本当に不思議です。

還暦過ぎてても表情の輝きは皆オトメになってあちこちのテーブルで総会前から話はずみです。

総会のお知らせを今回は、四百五十人近い人に往復ハガキでお知らせすることにしました。通信事務費はどこにも出ないことから地元の人には手渡しや電話作戦で経費を節約しました。名簿の



確認作業も手間暇のかかることでしたが、幹事を引き受けてくれた方々は皆テキパキとクラス分を担当してくださいました。お陰で五十四名の参加となりました。

アトラクションは八組だった立花かおりさんをお願いしました。箏と尺八の素敵な演奏会となりました。尚、事務通信費として協力いただいた経費の残四万円は、47年卒有志からとして同窓会長にお渡ししてまいりましたことをご報告いたします。

不思議なもので、仲間が集まるとそこは、三十五年も前の教室になり、校庭になり、部室になります。気持ちちは、もちろん十七歳の福女生。校歌

若返りの秘薬同窓会

安倍（齋藤）貴美子（昭和57年卒）



がながれば自然とハモリます。思い出話は次々とあふれ出し、笑いが止まりません。この笑い、おなかの脂肪も燃焼してくれました。しわを気にしながらそれはそれは楽しい時間を過ごしました。

今回は、幹事が二名しか集まらず、やむを得ず、クチコミでの声かけとなりました。多くの方が今年当番の年である事を知らないこととなってしまう、幹事として大変申し訳なく思っております。十年後の次回こそは、幹事の力を合わせて、効果バツグンの若返りの秘薬を煎じて、多くの皆さんとの再会を願っております。

橋高校10期生

八巻 萌人（平成27年卒）

高校卒業と同時にばらばらになってしまった同級生が集まる良い機会だと思ひ、成人式前日に同窓会を企画しました。開催するに当たり苦勞も多々ありましたが、学年幹事会のメンバーの協力もあり、なんとか形にすることができました。

当日は橋十期生一六六名が一同に会し、旧交を温めました。また、お世話になった先生方にもお忙しい中ご参加いただき、より一層会場の雰囲気も華やかなものとなりました。多くの方々のご協力のもと、成功裏に終えることができましたことに感謝申し上げます。



今回、私自身二度目となる総会に参加し、大勢の先輩方とお話しさせていたたいた際に、改めて福島女子高等学校の時から築かれてきた伝統や歴史を肌で感じたことができました。若輩者ではありますが、私もこれからの橋高校の礎の一部となれるよう精進して参ります。

あとがき

☆今回は母校創立百二十周年を特集してお届けします。紙面の都合上十分とまではいかないまでも、できる限り記念事業の内容や式典当日の様子が分かるように努めました。大先輩小島美子先生の講演が世代的隔りを越えて、母校生の若い心にもますます届くのが見てとれたことが強く印象に残りました。